

1 本年度の重点教育目標

自分の成長を実感する子 ～笑顔で学ぶ日吉っ子～
「笑顔で学ぶ日吉っ子」《3づくり》
(1) 個性や特性を生かした支持的風土に溢れた学級をつくる。(学級づくり)
(2) 一人一人に応じた多様で質の高い学びを引き出す授業をつくる。(授業づくり)
(3) P T A, 町会, 学校運営協議会との連携等により地域の教育の核となる学校をつくる。(学校づくり)

2 本年度の取組の重点

(1) 学級経営の充実 (2) 学習指導の充実・授業改善 (3) 特別支援教育の推進 (4) 学校の安全確保と教育環境の整備
(5) 校内外の連携と協働 (6) 教育公務員としての自覚と誇り (7) 働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見(改善策など)	
(1)学級経営の充実	①児童理解の充実 ②問題行動の早期発見・早期対応 ③いじめや不登校への対応 ④学年団,担任以外の教職員のサポート	a	教職員は情報交流を密にしながら、多面的な児童理解に努めていた。情報交流が日常的に行われていたことで、問題行動の早期発見・早期対応にもつながっていた。不登校については、面談等をしながら進めているが、家庭を含めた問題も多く、関係機関との連携の強化が求められる。専科教員や特別支援コーディネーター等の献身的なサポートは、学級経営の充実に結び付いている。	A	A	
(2)学習指導の充実・授業改善	①基礎的・基本的な内容の定着 ②学習規律や生活規律の徹底 ③ICT機器の効果的な活用 ④家庭学習の定着 ⑤指導方法・指導形態の工夫 ⑥学校図書館の効果的な活用 ⑦教育課程の評価・改善	a	専科教員による専門的な指導や、算数T T 加配による個別指導の充実により、児童の学力向上、意欲向上に成果が見られた。また、学校として統一した指導を繰り返し働きかけてきたことで、学習規律や生活規律が、少しずつ児童に定着してきた。 校内研修等により、教職員のICT機器の効果的な活用も進んでいる。家庭学習への取組については、児童・保護者ともアンケートでの評価が低く、主体的に学ぶための学校からの働きかけが今後の課題である。 学校図書館は、本の配置やインデックス、閲覧スペースの工夫、適切な新刊図書購入等により、来館者数を増やしている。	A	A	
(3)特別支援教育の推進	①ケース会議の充実 ②校内支援体制の充実 ③日吉っ子交流会の効果的活用 ④支援級・通級の指導の充実と通常級との連携 ⑤各種関係機関との連携	b	日吉っ子交流会等により、配慮が必要な児童についての情報は、全教職員で共通理解されている。ケース会議では、対応の仕方について協議し、児童の困り感が軽減するような働きかけが少しずつできてきている。しかし、対応しなければならぬ児童が多く、ケース会議にかかる時間を確保することや、対応するための人材が足りないこと、各種関係機関との連携強化が課題である。	A	A	
(4)学校の安全確保と教育環境の整備	①安全指導の徹底と防災防犯意識の向上 ②感染症等予防対策の習慣化 ③職員の危機管理意識の向上 ④学校内外の教育環境の充実	b	校内外のまきりを整備し、繰り返し働きかけてきた。廊下歩行にはまだ課題が残るが、少しずつ落ち着いた学校生活に結び付いてきている。地震等の災害時、熊の出没時等における教職員の具体的な動きについては、定期的に確認していく必要がある。 児童のSNS利用が増え、SNSやゲームに関するトラブルが増えている状況から、今後も防犯教室や各種チラシ等を利用して、適切な関わり方を伝えていきたい。	A	A	
(5)校内外の連携と協働	①学級間,学年,ブロックの協力・連携 ②校内組織間の協力・連携 ③家庭との連絡と情報交換 ④積極的な情報発信 ⑤学校運営協議会の充実 ⑥保護者アンケート等を生かした学校改善 ⑦中学校区3校の連携の強化 ⑧コミュニティ・スクールの効果的運営	b	教職員の協力・連携体制が確立し、様々な学校課題に対し、迅速かつ丁寧に対応することができている。各種通信やテトル等で、家庭・地域への情報発信に努めているが、保護者アンケートの結果を見ると、未だ十分とは言えない。より広く声を受け止め、共に歩んでいける工夫があると良い。 保護者アンケートでは、忌憚のないご意見を多くいただき、今後の学校運営に生かしていくことができた。中学校区3校の連携については、多くの教職員が携わるようになり、取組が定着化してきたと感じる。	A	B	地域住民とP T A, 学校がさらに連携していくために、様々な切り口から距離感を縮めていけると良い。家庭との連携においては、早め早めの情報発信を心掛けていく。
(6)教育公務員としての自覚と誇り	①責任の自覚と自己研鑽 ②教職員相互の情報交流と報連相の徹底 ③リスベクトを共通認識とする教職員集団 ④教職員事故防止の徹底	a	教職員は計画的に研修に参加し、研鑽に励んでいる。教職員間の関係は良好で、管理職も交えて積極的に情報交流することができている。職員会議や運営委員会等では、建設的な意見交流がなされ、学校改善に向けた取組を随時行うことができている。 実際に起こった事例を共有するなど、教職員事故防止に向けた研修も適宜行っている。	A	A	
(7)働き方改革の推進	①業務の効率化,時間外勤務時間の縮減 ②行事や校内組織の精査,改善 ③メンタルヘルスの推進	b	校務のICT化,行事・校内組織の精査・改善を積極的に行っており、働き方改革は進んでいる。しかし、時間外勤務時間の縮減につながっていない教職員もおり、個々の意識変革を図りながら、学校全体で改善することが求められる。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。